

南部中核拠点整備基本計画（案）

説明資料

令和 7 年 6 月
奈 良 県

目次

1. 計画策定の背景と経緯	…P 2
2. 計画地の概要	…P 3～4
3. 整備の基本方針	…P 5～6
4. コアゾーンに導入する施設	…P 7～12
5. 造成計画	…P 13
6. 施設配置計画	…P 14
7. 支援ゾーンの整備方針	…P 15～16
8. 先行整備計画	…P 17
9. 基本計画図等	…P 18～20
10. 制限表面図	…P 21～22
11. 周辺道路の課題検証	…P 23～31
12. 整備スケジュール、概算事業費	…P 32～33
13. 平常時の利用検討	…P 34
14. 当面の主な検討事項	…P 35

1. 計画策定の背景と経緯

(1) 背景と経緯

- ・ 近年、災害が激甚化・頻発化しているとともに、今後、奈良盆地東縁断層帯地震や南海トラフ地震といった大規模災害の発生が懸念されている。
- ・ 大規模災害発生時には、県や被災市町村のみでは十分な応急対策活動が困難であることが予想されるため、県が全国的な応援を迅速かつ円滑に受け入れ、被災市町村や被災者の支援につなげることが重要となる。
- ・ このため、令和6年4月に外部有識者から構成される災害応急対策（防災拠点）検討部会を設置し、大規模災害に備えた広域的な防災体制のあり方や広域防災拠点における災害応急対策等について議論を進め、令和7年3月に災害応急対策（防災拠点）基本構想を策定した。
- ・ また、消防学校が持つ機能をより効果的に発揮できる整備方針を早急に決定することが基本構想に位置付けられ、消防学校を五條県有地に移転し、南部中核拠点と一体的に整備することを決定した。

(2) 整備基本計画策定の趣旨

- ・ 基本構想において示された県南部の核となる南部中核拠点のあり方に基づき、機能、施設規模、配置計画等に関する基本的な考え方をとりまとめるとともに、その整備について具現化するもの。

2. 計画地の概要

(1) 計画地の諸元

所在地：奈良県五條市黒駒町762番外

敷地面積：**約64ha**（東エリア：約45ha＋西エリア：約19ha）

- 奈良県の南北方向のほぼ中心に位置
- 県内の大部分が計画地から概ね50km（ヘリで約15分）圏内
- 計画地内は北東から南西方向に標高が高く、**最大で約70mの高低差**
- 谷を挟んで**東エリアと西エリアの2つのエリアで構成**
- 両エリアを橋梁（設計荷重：T-4）が結ぶ
- **京奈和自動車道、国道24号、国道168号に近接**
- 東エリアへの既設進入路（市道）が敷地の北東端に接続

《ライフラインの状況》

電気：旧ゴルフ場への供給あり

水道：旧ゴルフ場への供給あり

ガス：都市ガス供給エリア外

下水道：下水道事業区域外



計画周辺の状況(航空写真)



両エリアをつなぐ橋



計画地の状況

■ 位置図(広域)



■ 位置図



2. 計画地の概要

(2) 関係法令

- 計画地は、**都市計画区域**（市街化調整区域）、**地域森林計画対象民有林**、**宅地造成等工事規制区域が含まれている**。なお、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域、砂防三法指定区域、保安林、農用地は存在しない。
- 引き続き、**関係機関と協議・調整を進め、各種法令の規制や技術基準等を踏まえて、整備を実施**

(3) 計画地周辺の流域

- 計画地周辺は奈良県と和歌山県にまたがる**紀の川（吉野川）流域**
- 計画地周辺は大きく6つの流域から構成され、計画地はそのうち4つの流域に属している
- **整備にあたっては流域を変えないことを基本方針**とする

■ 流域図

※ 地形図やこれまでの調査、地元関係者へのヒアリングから整理

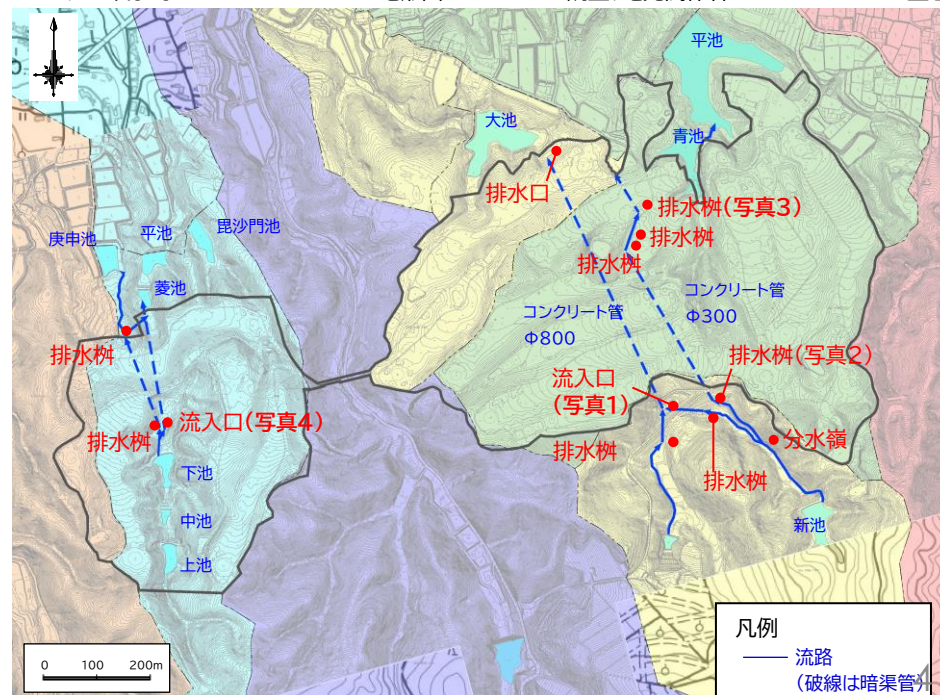


写真1 東エリア内の横断管の流入口



写真2 東エリア内の横断管の流入口(排水樹)



写真3 東エリア内の水路、排水樹



写真4 西エリア内の横断管の流入口

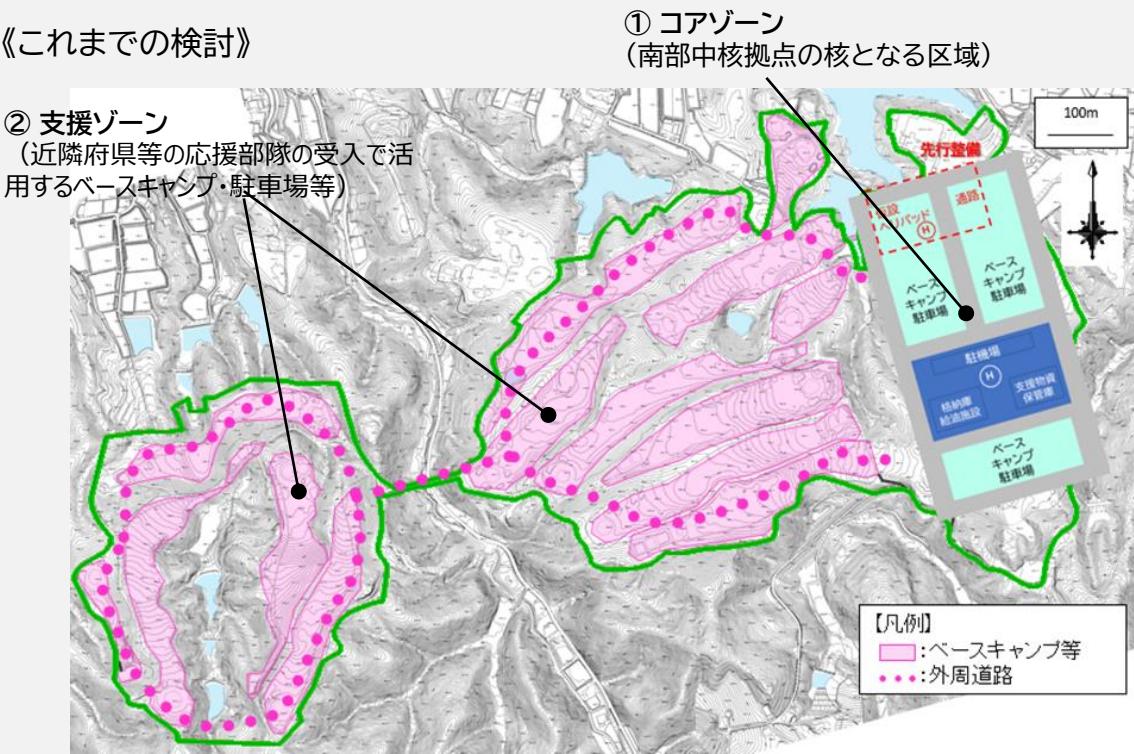
3. 整備の基本方針

(1) コアゾーン、支援ゾーンの考え方

- ・ コアゾーン： 南部中核拠点に必要な防災機能と消防学校が立地する南部中核拠点の核となる区域
コアゾーンに設ける施設（ベースキャンプ・駐車場等を含む）は造成された平場に設ける
- ・ 支援ゾーン：コアゾーンを除く部分のうち、コース跡地など比較的平坦な区域
大規模災害時等に近隣府県等の応援部隊の受入に活用するベースキャンプ・駐車場等

《これまでの検討》

② 支援ゾーン
(近隣府県等の応援部隊の受入で活用するベースキャンプ・駐車場等)



南部中核拠点 活用イメージ
「奈良県災害応急対策(防災拠点)基本構想」から抜粋

《コアゾーンに必要な機能・規模》

機能	施設名	規模
進出・救助活動拠点	ベースキャンプ 駐車場	7.70ha
物資輸送拠点	支援物資保管庫	1,600㎡
航空搬送拠点 (航空支援拠点)	ヘリパッド 駐機場	1.50ha
	格納庫	500㎡
	給油施設	800㎡
防災拠点 計		9.49ha
消防学校		約4.4ha※ 1
合計		約14ha

※1 消防学校の規模は4.4haを想定
(消防学校に必要な機能や施設規模・配置は現在検討中)

3. 整備の基本方針

(2) 南部中核拠点整備の基本方針

- ・ 北部中核拠点と相互に連携・補完し、災害対応にあたる拠点であることから、進出、救助活動、物資輸送、航空搬送（航空支援）の機能を備えた拠点とする。
- ・ 南海トラフ地震等の大規模災害が発生した場合には、県内被災地への支援はもとより、甚大な被害が想定される紀伊半島沿岸部への支援のために活用する。そのため、県内だけでなく近隣府県へ派遣される応援部隊のベースキャンプ等として、五條県有地全体を活用する。
- ・ 防災拠点としての効果を早期に発現させるため、段階的に整備する。

■ 南部中核拠点の段階的な整備

第1段階：先行整備

ヘリパッドと通路を先行整備し、早期に防災機能の効果発現を図る



第2段階：コアゾーンの整備

南部中核拠点の核となるコアゾーンとして、
防災拠点となる施設(約9.49ha)および消防学校(約4.4ha)の整備を進め、防災機能を向上させる



第3段階：支援ゾーンの整備

近隣府県等の応援部隊を受け入れるベースキャンプと外周道路等を整備して
更に防災機能を向上させる

4. コアゾーンに導入する施設

(1) ベースキャンプ・駐車場

- ・ 消防、警察、自衛隊等の応援部隊が部隊の指揮、宿営、燃料補給等を行うための施設
- ・ コアゾーンに設けるベースキャンプ・駐車場は砕石舗装を想定

施設名	面積	備考
ベースキャンプ	7.7ha	砕石舗装

■ 施設イメージ



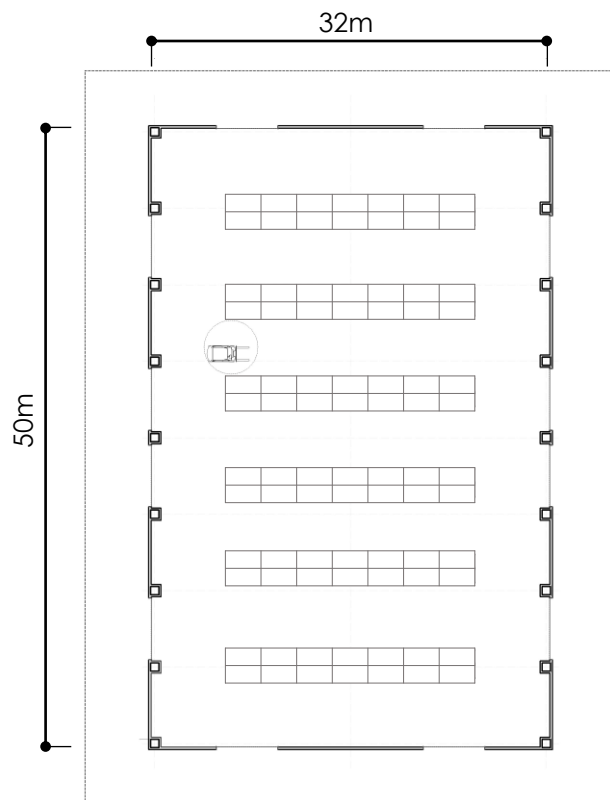
4. コアゾーンに導入する施設

(2) 支援物資保管庫

- 国等からの支援物資を受け入れ、被災地へ送り出すための施設

施設名	面積	階数	構造	備考
支援物資保管庫	1,600㎡	1階	鉄骨造	倉庫型

■ 施設レイアウト(イメージ)



■ 考え方

- 入出庫を効率的に行うため、開口スペースを大きくする。
- 倉庫内にはパレットラックを設置する。
(フォークリフト使用を想定し、ラック間は2m幅とする。)
- 設計段階において、具体的な床荷重、天井高などを決定する。

■ 施設イメージ

立川防災合同庁舎備蓄倉庫棟（東京都立川市）



【出典：東京都HP】

大桑防災備蓄倉庫（石川県金沢市）



【出典：金沢市HP】 8

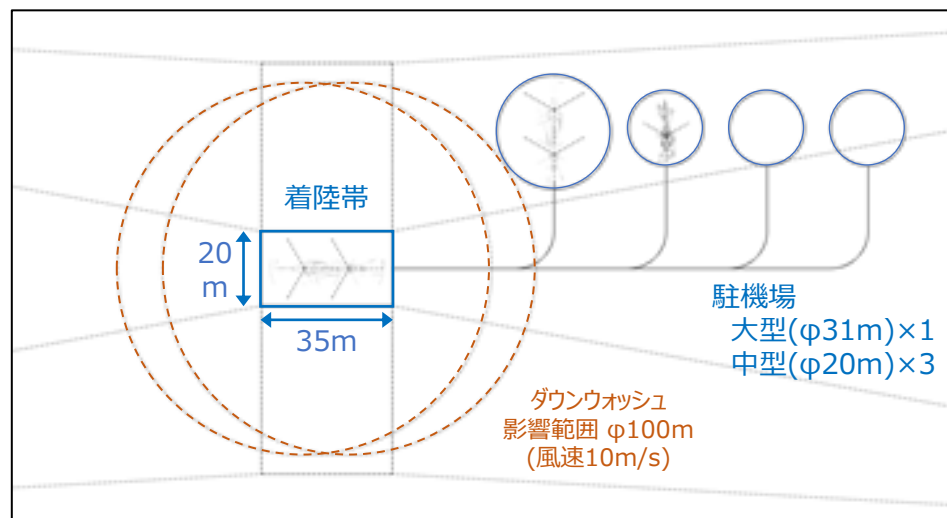
4. コアゾーンに導入する施設

(3) ヘリパッド・駐機場

- 防災関係機関のヘリコプターが離着陸するための施設（場外離着陸場）

施設名	面積	備考
ヘリパッド・駐機場	1.5ha	ヘリパッド 1箇所 着陸帯 35m×20m (約12,000㎡) 駐機場 1箇所 大型 直径 31m (約1,300㎡) 3箇所 中型 直径 20m (約1,000㎡)

■施設レイアウト(イメージ)



■施設の考え方

- 大型ヘリの離着陸を想定し、着陸帯は35m×20mとする。
- ダウウォッシュの影響から、着陸帯から半径50mに空地を設ける。
- 大型ヘリ、中型ヘリの機体全長を踏まえた駐機場を設ける。

■施設イメージ

奈良県ヘリポート



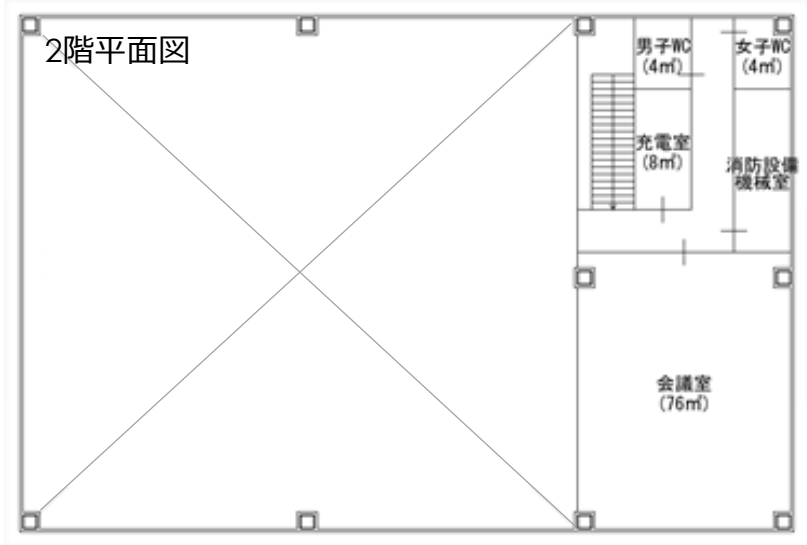
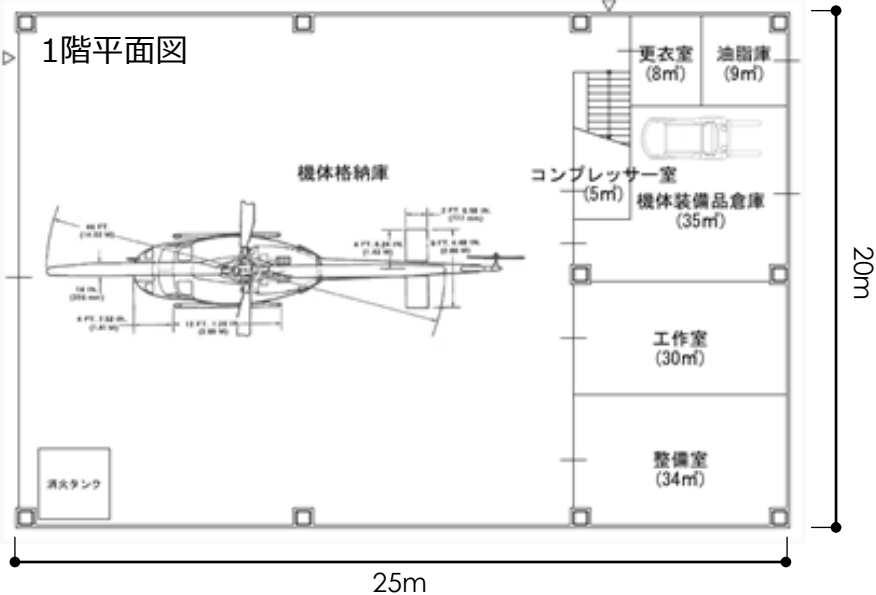
4. コアゾーンに導入する施設

(4) 格納庫

- ヘリコプターの整備等を行うための施設で、発災時にはSCUや合同調整所※としての活用も想定
- ※ 消防、警察、自衛隊、DMATが情報共有、活動調整を行うための場

施設名	面積	階数	構造	備考
格納庫	500㎡	2階	鉄骨造	SCU機能 合同調整所機能

■ 施設レイアウト(イメージ)



■ 施設イメージ

格納庫 (和歌山県和歌山市)



SCU設置状況 (大阪府八尾市)



■ レイアウトの考え方

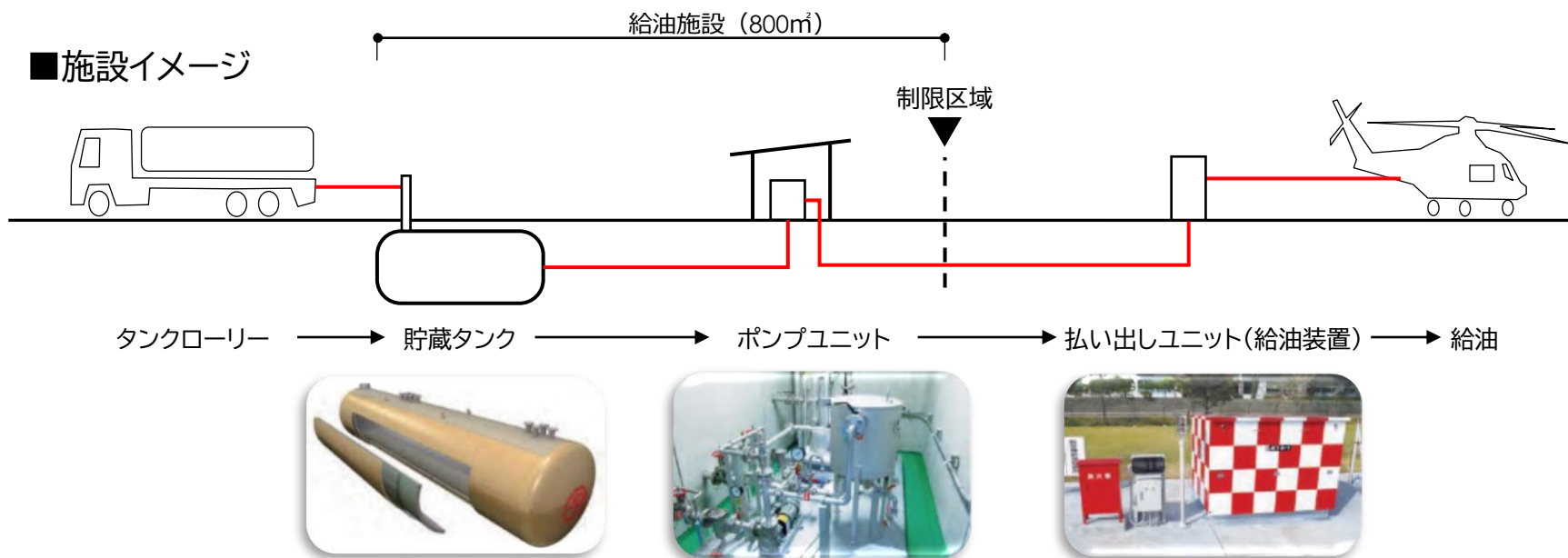
- ヘリの整備に必要な諸施設 (工作室、整備室等) を設ける。
- SCUとしての活用を想定し、資機材倉庫を設ける。
- 合同調整所としての活用を想定し、会議室やトイレを設ける。

4. コアゾーンに導入する施設

(5) 給油施設

- 防災関係機関のヘリコプターの燃料を給油するための施設

施設名	面積	備考
給油施設	800m ²	地下タンク貯蔵所



【出典】エアロファシリティ株式会社

■ 施設の考え方

- 燃料の貯蔵は、タンク周囲に保有空地の確保が不要な地下タンクでの貯蔵とする。
※ 貯蔵タンクの規模は今後、防災拠点の運用方針を踏まえて決定する。
- 配管によって、駐機場の払い出しユニットへ貯蔵タンクの燃料を送り、ヘリに給油する方式を想定する。

4. コアゾーンに導入する施設

(6) 消防学校（約4.4haを想定）

※ 本県消防学校に必要な機能や施設規模・配置は現在検討中

- 消防組織法第51条に基づく、消防職員および消防団員の教育訓練機関

参考事例：他県消防学校（広域防災拠点指定有）

他県消防学校	所在地	敷地面積	現校舎 建築年	教育管理 施設	宿泊 施設	主な実践的訓練施設							
						屋外 訓練場	屋内 訓練場	実火災 体験	街区火災 (移動式家屋)	自然災害 (震災・土砂)	高層複合 (山岳救助等)	救助訓練 (ロープ・ はしご)	水難救助
富山県	富山市	4.2ha	平成24年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三重県	鈴鹿市	4.6 ha	平成8年	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
和歌山県	和歌山市	4.6 ha	平成29年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

整備を想定する施設（イメージ）

・ 教育管理施設

講堂・教室や救急実習室などの教育訓練施設、職員室や宿直室などの管理施設

・ 宿泊施設

消防職員および消防団員が宿泊研修を行うための寮や浴場、食堂などの生活関連施設

・ 実践的訓練施設

火災や自然災害など、実災害の現場と類似した状況を再現して訓練を行うことができる施設

【出典】千葉県HP、大阪府HP

教育管理施設



宿泊施設



屋外訓練場



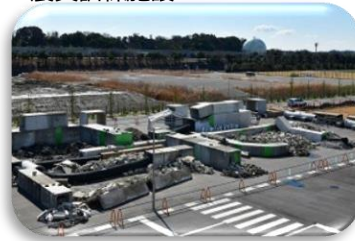
実火災体験施設



街区火災訓練施設



震災訓練施設



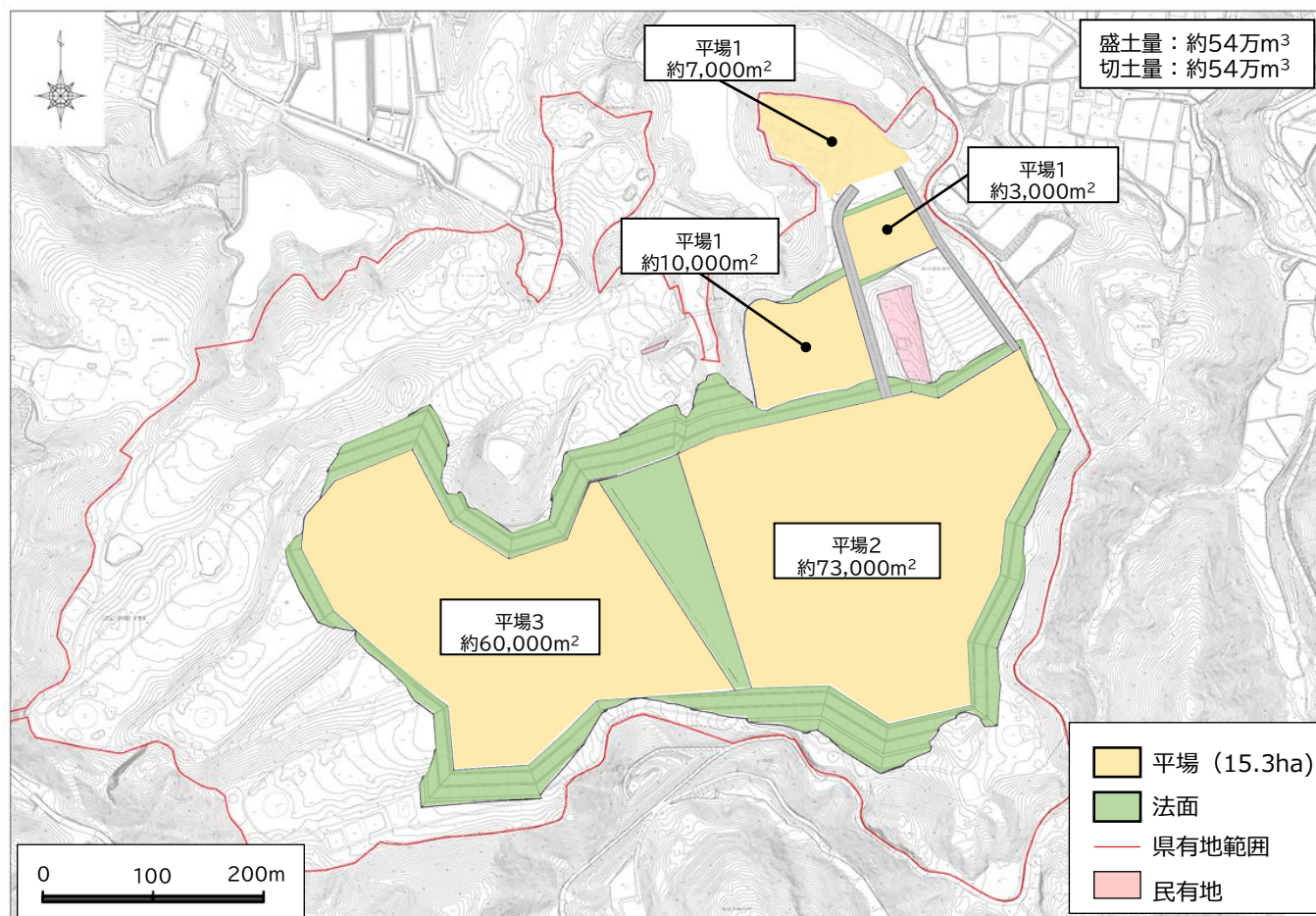
救助訓練施設



5. 造成計画

(1) 基本的な考え方

- ・ コアゾーン約14ha(防災拠点9.5ha+消防学校4.4ha)は県有地東エリアの同一流域内を造成した平場に設ける。
- ・ 平場1は現地形を活かし、必要最小限の切土・盛土を実施、平場2と平場3は切土・盛土によりそれぞれ一回の土地を造成する。
- ・ 造成は切土・盛土の高さを抑えつつ、切土量と盛土量のバランスを図る。



6. 施設配置計画

(1) コアゾーンの施設配置検討

- 施設規模や施設管理を考慮のうえ、防災拠点や消防学校は一定規模を確保できる平場 2 を中心に配置する。
- 防災拠点と消防学校の配置においては、消防学校を入口に近い北側に配置することで、平常時の利便性が高いこと、防災拠点を南側に配置することで、ヘリパッドが北側の住宅地から離れるため騒音の影響が小さくなることから、案 1（消防学校を入口に近い場所に配置）を採用。

	案1	案2
概要	消防学校を入口に近い場所に配置	防災拠点を入口に近い場所に配置
配置	